

平成 21 年度再評価対象事業一覧表 (事業採択後、一定期間(5~10年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)	備考
5	みやき町公共下水道事業(北茂安処理区・中原処理区)  事業主体： みやき町  事業地： みやき町	みやき町は三養基郡内の三町(北茂安町，中原町，三根町)が平成 17 年 3 月に合併して成立した町である。筑紫平野の穀倉地帯の一部であり，鳥栖市や福岡県久留米市に隣接しているため，良好な自然環境を持ち合わせた生活圏として注目されている。 町内には国道及び主要地方道が東西に走っており，福岡県から佐賀県中心部への中継地として発展を呈してきた。町中心部には集合町営住宅，町周辺部には娯楽施設が立地しており，市街化及び宅地化の傾向は顕著になっている。 この状況下で，住民アンケート調査では河川及び灌漑用水路の汚濁を懸念する意見が全体の 80% を占め，汚水処理整備に対する地元住民からの要望が高まっている。このため公共下水道を整備することにより，生活環境の改善及び公共用水域の水質保全是もとより，定住化の促進を目的に事業を進めている。	全体事業費 188.10 億円  計画目標年次(全体計画) H12~H30  事業内容 ・計画面積(全体計画) 512.7ha 北茂安 310.0ha 中原 202.7ha  ・計画人口(全体計画) 19,100 人 北茂安 11,900 人 中原 7,200 人  ・処理場計画 北茂安処理区内のみやき町浄化センターにて共同処理	下水道処理人口普及率(H20 末) 15.6% (4,166 人/26,744 人) 北茂安 3,113 人 中原 1,053 人  下水道処理人口普及率(最終目標値) 71.4% (19,100 人/26,744 人)  整備済面積 150.0ha (29.3%) 北茂安 104.0ha 中原 46.0ha  H20 末事業費進捗率 42.2% (7,938.0 / 18,809.5) 単位：百万円	町中心部には町営団地をはじめとする集合住宅が多く存在しており，それと並行して町周辺部においても宅地開発，娯楽施設誘致等が進んでいる。 その一方で，核家族化及び住民の高齢化が進んでおり，個人による排水処理施設の維持管理が複雑になることが懸念される。 また公共用水域においては水質保全の観点から処理水の放流水質規制が厳しくなっている現状である。 この対策として，自治体による排水処理施設の一元管理を行い責任の所在を明確にして水質保全に努める姿勢が今後必要となってくる。	事業採択時と比較し，費用対効果の要因の大きな変化はない。	(コスト削減) 小口径塩ビマンホール，リブ付硬質塩化ビニル管の採用及びマンホール設置間隔の見直し等により，コスト削減を図る。  (代替案の検討) 公共下水道を実施するにあたり以下のメリットが考えられる。 施設の維持管理を個人でなく町で行うことにより，個別処理と比較して責任の所在が明確になる。 経済性において代替案より公共下水道が優れている(費用対効果結果より)。 公共用水域の水質保全において，今後水質規制が厳しくなっても公共下水道は対応可能である。 この結果を受けて，この地域の汚水処理施設の整備手法として公共下水道による方法が最適である。	10 年以上継続	継続  (理由) みやき町は，平成 12 年度から公共下水道事業に着手し，平成 18 年 6 月に一部供用開始している。平成 20 年度時点の下水道の処理人口普及率は 15.6% となっており，最終目標普及率 71.4% に向けて順調に整備を含めるところである。 事業の内容について地域住民に対する定期説明会の開催(事業説明会，工事説明会，下水道接続説明会)及びパンフレットの配布を行い普及啓発に努めており，近年下水道事業に対する住民意識が高まりつつある。この為，本町の公共下水道事業については，「継続」が必要である。	



